

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月22日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 3671700254 |
| 法人名 | 社会福祉法人 健祥会 |
| 事業所名 | グループホーム 礼あり優あり |
| 所在地 | 徳島県吉野川市鴨島町麻植塚字向麻山西196-1 (電話) 0883-26-1175 |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 |
| 訪問調査日 | 平成19年 12月 15日 |

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|--------------------------------------|-----------------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 9 月 1 日 |
| ユニット数 | 3 ユニット |
| 職員数 | 22 人 |
| 利用定員数計 | 27 人 |
| 常勤 21人, 非常勤 1人, 常勤換算 渦7.5人, 川7人, 剣7人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------|
| 建物構造 | 木造平屋 造り |
| | 1 階建ての 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|---------------|------------|------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 18,000 円 | その他の経費(月額) | 光熱水費6,000円 | |
| 敷金 | 有() 円 | 無 | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有() 円 | 有りの場合償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 350 円 |
| | 夕食 | 350 円 | おやつ | 0 円 |
| | または1日当たり 900円 | | | |

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|---------|---------|----|------|
| 利用者人数 | 26 名 | 男性 | 7 名 | 女性 | 19 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 8 名 | | |
| 要介護3 | 8 名 | 要介護4 | 8 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 83.7 歳 | 最低 63 歳 | 最高 95 歳 | | |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------|
| 協力医療機関名 | ・鈴木内科 ・石田歯科医院 |
|---------|---------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は清潔で栄養管理も行き届き、職員が明るく利用者のその人らしい暮らしを支えるチーム連携のケアに取り組んでいる。重度化や終末期に向けてマニュアルに沿った事業所でできる最大の支援方法が家族と話し合われている。事業所は「地域」の中のホームを認識し、関係業者や職員は地元優先である。地域との交流は広がり、避難訓練に近隣住民も参加され災害時の避難に協力してもらえるようになっている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 理念のパンフレットへの表記、契約書等への権利・義務の記載、職員間での確実な情報伝達について改善されている。また、介護計画書の長・短期目標は全職員がモニタリングから対応がなされ計画にいかされている。利用者と同じ食事を摂ることについても改善されている。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価をふまえて全職員が改善に取り組み、自己評価は全職員の意見を反映したものとなっている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議は2ヶ月に一度開催されており、利用者、家族、民生委員、地域世話人等で構成されている。会議の内容は災害対策、緊急時の対応、ホームの取り組み等について討議されている。利用者代表の積極的な発言もあり、意見をサービス向上に活かしている。しかし、現在においては行政及び地域包括支援センター職員の参加はされていない。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族や利用者の意見、苦情、不安の表出については意見箱の設置の他、公的機関があることや事業所内の担当者を決めて説明がなされている。出された意見はできるものから対応し、運営に活かされている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | ホームの行事には近隣の老人会を招待し、ホームの避難訓練には地域の方にも参加してもらい、災害時に協力してもらえる関係作りがされている。また、利用者が地域の祭りに出向いたりして顔見知りの関係作りが図られている。学校帰りに中学生が訪れたり、ボランティアの訪問もあり交流が広がっている。 |

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 事業計画の基本方針や重要事項説明書に豊かで高品質な地域密着型サービスの提供がうたわれ、地域密着型のサービスとしての理念が作成されている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者と職員は毎日のミーティング時に理念の共有を行い確認がなされ、日々のサービス提供場面に理念が反映されている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | ホームの行事には近隣の高齢者を招待して共に楽しんでいる。また、地元の中学生在が放課後遊びに來たりし交流がある。職員は地元の者が多く、ホーム出入りの生活関連品納入業者も地元業者であり、近隣で住む人達とふれあう機会は多くある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に一度開催されており、利用者、家族、民生委員、地域世話人等で構成されている。会議では評価結果の報告や現在取り組んでいる事柄について報告し、意見をもらうようにしている。利用者代表は利用者の意見を集約し会議に臨んでいる。行政は、次の開催から参加が得られることになっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 事業所は市との関係づくりに積極的に取り組み、常に情報交換を行っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 事業所は毎月のホーム便りのほか、利用者ごとの担当スタッフが日々の暮らしぶりや気づきを毎月手紙で家族に送っている。日常の様子や行事の写真をまとめたものも同封している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族には手紙や訪問時、家族会等で常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気作りがされている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 基本的には各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。異動や離職がやむを得ない場合にも時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所内外の研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修報告は全職員が閲覧できるようにしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協会の研修に参加したり、他法人の事業所と交流しておりサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人や家族に事業所を見学してもらったり、遊びに来てもらいながら徐々に馴染めるよう工夫しながら、ホームで安心して暮らせる関係づくりに配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 支援する側、支援される側という認識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面づくりや声かけをしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で声をかけ、意向の把握に努めている。言葉や表情などから真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 職員全員でモニタリングを行い、介護計画の作成に活かしている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や家族、本人の要望に応じて見直しを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人・家族の状況に応じて、通院等必要な支援が柔軟に対応されている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者が、かかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり総合病院、歯科医院など複数の医療機関と関係を密に結んでいる。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 事業所独自の終末期対応マニュアルにより、利用者、家族等関係者が事業所でできる最大の支援方法について話し合い方針を共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | すべての職員が利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を損ねるような言葉かけをしないような配慮をし、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 事業所は基本的な一日の流れはあるが、利用者のペースに合わせ、一人ひとりの体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員は一人ひとりが楽しく食事が摂れるよう、さりげなく援助し、全体を見守り明るい雰囲気づくりに努めている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は利用者の希望に合わせて入れるよう支援している。入浴をいやがる利用者には安心して入浴できるよう支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | その人の得意分野を活かし、洗濯物をたたんでもらったり、畑仕事をしてもらったりしている。折紙名人や絵の上手な人は他の利用者に教えるなどしてもらっている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 外食やドライブなど利用者の馴染みの場所へ行ったり、買い物に行くなど戸外に出る支援がされている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵をかけず、職員がさりげなく見守りを行うことで自由に外に出られるようなケアに取り組んでいる。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | マニュアルを作成し、消防署の協力を得て利用者と共に地域の人も一緒に参加してもらって、消火器の使い方や避難訓練を定期的に行っている。いざという時のために水・食料・衛生機材の備蓄をされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は同法人の管理栄養士により栄養素とカロリー計算がされ作成されている。個人チェック表に食事摂取量や水分摂取量を記録している。職員は利用者の体調や食べるタイミングに留意して介助をし、食事の状況を見ながら臨機応変に食器を換えたりし、利用者が食べやすい工夫がされている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やフロアは季節感を取り入れた植物や飾り付けがされ、熱帯魚の水槽では川エビが繁殖している。利用者は各ユニットを自由に行き来し、地元の業者の出入りがあり活気がある。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 写真や家で使っていた家具を部屋に持ち込み、一人ひとりの生活スタイルに合わせた部屋作りがされており、居心地よく過ごせる環境となっている。 | | |